

日泰辭書原稿

「7」0部(2)

7
よりクホムまで

第一次檢討(主として用例)

木村

第二次檢討(助詞其他)

淺野

第三次檢討(品詞分類)

中島

第四次檢討(全般)

長沼

クセ

癖 (クセ)

しつこく 持身

○朝寝は悪い癖です。

○その癖はなほさなくはいけません。

○よい癖はつとみによく悪い癖はつとにやすい。

○髪のもくせをのぼす

○着^まの癖をのぼす。

○あの人は癖のない人だ。

○おとりに人の言ふ事に難癖をつけろ。

○けむか一癖ありさうな人。

○癖のある馬は能あり。(句) 一癖あるものには善の

取得あり。

4
9
部
(2)

クセニ

クセに

(梅助)

△確かにさうなのにそれにもかかはらず

といふ時に用ゐる。

○知りもしないくせに知つてぬる様を顔

する。

○見もしない癖はかうしてしてゐるのです。

○見たくせに見ないふりをするのほしくなし。

○子供のくせに生意氣な子。

クセモノ / クセモノの 曲者 (名)

(一) 悪漢・盗人

○曲者、これ。

○曲者は捕られた。

○~~稀代の曲者~~

(二) 気の許せぬ者。

○あいつはゆゑ曲者だから、
旧漸かならない

○あの人は手負い曲者だ。

(1308)

クセン

○我軍の~~其~~猛攻撃
に~~あ~~つた。

に~~あ~~つた敵軍は非常な苦戦

苦戦 五

クソ

トキ

養

(名)

尾

頭

○養をとする。

○味増セ養セ一語にする。

△養んごも一語に考へよ。すじれてぬ

子者もあつてぬよとの一語に扱ふ。

○養の役はをたぬ。

△此の役はせぬ。

○養食入。

クソ

△馬御の言好す。

○自棄養。

クソ

△(解) 養は時に入るときの掛り。

○養強。

接頭

○養度胸

○養滞着

△猶勉強。幾分輕薄の言を信ずる。轉じて
九月の果のあからぬ勉強をすすること
申す。

△用例の終の方のニは接頭、接尾的に用
いられた例で、この場合が多い。その他

接尾的のニのには、自棄意、接頭的のニのには、
意度胸、業力などあるが、多くあつた。

~~味は用ひる。言葉ではない。~~

○美落着。△ソに落着く。ぬえ。

○美度胸。△ソに度胸がすわろぬえ。

ク
ク

○ ゴム
○ 管を通す。
◎ 管をまく。

司

酔
つたりして
無
駄
口
を
閉
じ
く。

管
五

ク
夕イ
テキ
ぐたい
てき
〔具体的〕
名

○御趣旨はよく分りましたから、この上は具

体的にどうすればよいかお話し下さい。

○今の所では具体的の方^法~~法~~はまだ定まらず

おたいやうな。

()

7
9
7

〔碎く〕 (他四)

① 細かくする。

○ 石炭は適當な大きさに碎いて使ふとよい。

○ 氷を碎いて氷嚢に入れておく。

② うち散らす。

○ 敵軍をうち碎く。

○ 科学は今までの迷信的な自然観を見事に

うち碎いた。

③ 譬喩的な言い方

○ 身を粉に碎いて飾る。

○ 子供の将来について母は一方百歩心算を碎いた。

日本教育出版

ク
夕
夕
夕
夕
キ
く
左
く
右
一

名
副

〇一日中歩ま通した^{うたが}た、^{つた}晩はく左くた

に癒れてしまつた。

〇もろくなくたか、これ以上は働けな。

〇くなく、^し造^る全力を^つつと^す

ク
タ
ケル
く
な
け
る

砕
け
る

(自力下二)

〇岩に浪が砕ける。

〇ホー
ルが電球に
当って微塵に砕けた。

〇この丸い心は砕けるが
先方には力を使わない。

〇玉と砕ける。

砕ける

クガサル。

下さる (他う、田)

い與へる。

○御袋美に万年筆を下さった。

○お^何手紙を下さつてありがたうございます。

(二)

○^下下さるは動詞に伴ふおのやうな御とす
和依頼命令と依頼の意を主す。

○この仕事をして下さい。

○あちら^でお待ち下さい。

○^品品は丁寧の意をあらはす。

○私の事をよく^面み^倒て下さいます。

○丁寧に下されば大^脚脚かりになります。

クダス くだす 下木降す (他廿四)

(一) 上から下へ下す

○命令を下す。

○号令を下す。

(二) 物をへり下賜する

○批評を下す。

○優渥なる勅を下し給ふ。

(三) 申下す。

○判決を下す

(四) 下痢をする

○二三日お腹を下して閉口しました。

○腹を下す

○下劑を下す。

○自ら手を下してする

△自ら為す

五 降参了せり。 証之甚きをけあまり用ひない。

○敵を下さす。

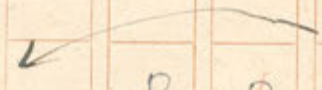
我が軍

ク
ク
バル
ル
く
た
ほ
よ
ハ
自
勤
う
西
シ

△死ぬの中身は、
言書がはな
い。

○くたぼつてしまへ。

○到々くたぼつてしまつた



俗

ク
タ
ビ
レ
ル

く
た
び
か
る

草
臥
れ
る

(
自
初
う
下
)

○ ~~草~~ のに ~~草~~ ^体 ~~す~~ かり 草臥れた。

○ ~~草~~ いた ~~草~~ 臥れた。

○ 草折損の草臥儲たつた。

△ 草折ったばかりの意。草苦してたん

の獲得と得たの意。

()

ク知モノ

○新鮮な果物は病人に補劑^{（補）}食へさせよ。

○~~毎~~日果物屋

果物

(石)

ク
ク
う
ナイ
ト
た
り
な
い
「
下
ら
な
い
」
(
新
修
)

取
る
に
足
ら
ぬ
無
價
値
な
馬
鹿
う
し
い

○
下
ら
な
い
事
に
金
を
使
ふ
な

○
あ
の
男
は
下
ら
な
い
事
を
言
っ
て
は
人
を
笑
は

せ
て
ぬ
る

○
く
ど
り
な
い
事
で
二
人
は
仲
違
ら
る
し
て
し
ま

つ
た

○
金
く
ど
う
な
く
此
の
世
を
過
し
た
し
ま
り
た

○
く
ど
り
な
い
事
を
言
う

クダリ　くダリ　下々　(名)

一 ~~下り~~ ^{下り} ~~の~~ ^の ~~道~~ ^道 ~~に~~ ^に ~~な~~ ^な ~~る~~ ^る

○ 下り坂 上り坂の反対

○ ~~下り~~ ^都 ~~の~~ ^都 ~~道~~ ^都 ~~に~~ ^都 ~~な~~ ^都 ~~る~~ ^都

○ ^都 ~~地方~~ ^都 ~~に~~ ^都 ~~行~~ ^都 ~~く~~ ^都 ~~事~~ ^都

○ 大阪下りのカサ

○ 下り列車

申下刺

○ ~~下り~~ ^お ~~り~~ ^お ~~の~~ ^お ~~道~~ ^お ~~に~~ ^お ~~な~~ ^お ~~る~~ ^お

二画 下火になる

○ 人の 陣の 勢も やー 下りふふつた。

△ 下り 阪・下り 腹・下り 列車 下り を 通すの

時 には 應じて 下り との お 略し と 用 心 場 合 が 多 。

クナル くだる 降る 下る (自ら思)

い上から下へ行ふ。

○舟で川を下る

○山を降る (山を降りる)

○敵軍撃つ日の命令が下れた。

○勅令が下る

(一) 連川 降参する

○遂に敵は我が軍に降つた。

(二) 下痢をする

○腹がくだる。

クチ

口

(名)

一言善に閑するもの。

○あの娘子は生意気な口をきく。

○横から口をあすものがはない。

○世間の口はうまいものだ。

○あの人は口が悪い。

○口がうまいから欺されてしまふ。

○思はず口をすべらした。

○あの人は口が堅い。

○どうも口が軽くて困る。

ニ會へるに關するもの。

の生の物は一切口にしない。

の、こんなものはお口に合はないのもいけません。

召上る下す。

。口がきいのも養生をわくのが大害だ。

三、本入るところ。出し入れするところ。

。財布の口をしめる。

。どの口から入るかわからない。

。表口。　　。本入口。

。裏口。

四入り込むべき地位。職業

○適当な口はなにか。

○教師の口はなにか。

○嫁入り口はなにか。

ガ
ク

グ
ク

愚痴

(名)

ノ 愚痴をこぼす

ソ 愚痴っほい。

オ 愚痴をいふ

ク
4
オ
シ
イ

く
ち
お
し
い

に
悟
し
い

形

の
ゆ
れ
を
思
ふ
と
は
悟
く
に
堪
ら
な
か
つ
た
。

○
失
敗
し
た
の
を
は
悟
し
か
つ
て
ぬ
ら
。

△
普
通
に
は
く
か
し
い
と
い
ふ
場
合
が
多
い

流
言
ま
じ
は

ク
ク
ク
カ
ン

驅
逐
艦

(九)

クチクセ
トチクセ
口癖 (名)

? 此の頃は奇... せよると口癖の様には定り

~~ない~~ ^{何のやいといふ} 言はかりた。

○父は口癖の様に人間は正直でなければい

けないといつてぬた。

○死ぬくと口癖の様... いてみえ人が道に死んぞ。

△普通は口癖の様にの形で多く用ふ。

夕 千 工 夕 工
く ち じ た へ
「 答 」 (名)
|

○ 彼は 何 の い は れ る と す ぐ 口 答 を す る の で

よ く 父 の い 叱 ら れ た

○ 親 に 口 答 す る 様 を 好 ん だ 可 せ ん 。



ク4カシ

くちを~~し~~

口出~~せ~~

(名)

○餘計な口出しはよせ。

○餘り口出しをすると承知しないぞ。

○人^{がと}~~が~~能^{をし}てみるのに偉い、口出しをするの

は失礼です。

ク4ナオシくちをほし

口直し

(名)

○この薬は~~苦~~いから、後で何か口直しが

欲しい~~き~~。

○口直しに甘いものを食べる。

ク
チ
ド
メ
ク
チ
ド
メ
口
止
め
〔
(名)
し
す
事
〕

○ 雇人達はその事に ついては堅く口止めす

れてゐる。

○ 口止めしたの子何時の間か疎れてしま

つた。

()

△
ク
バ
し

4
ち
ば
し

嘴
、
喙

(名)

ト
鳥
類
の
嘴

(二) 言葉をはさむ、干渉する

口
喙
を
出す

口
喙
を
容
れ
る

◎ 喙が黄色い。身(△)年が若く経験の浅いのをさす。

ク 4 バシル くちばしる [口走る] (他四)

言はなくてもよい事、言つてはなぐぬこ

とと思はず言ふ。

○彼は昂奮のあまりついあらぬ事を口走す

た為、大事が露見した。

○犯人が酔つたまがれに口走つた事から 悪事 露見した。

かつかいしてぬく捕つた。

露見した。

クハハテル ~~も~~ ~~ち~~ ~~は~~ ~~た~~ ~~ま~~ 朽果てる (自下二)

○僕だつてこのまゝ、田舎で朽ち果てるつし

りはない。

○あれだけの天才を折つふが、遂に毒がある

事もなく死んでしまひました。

○此のまゝくちほてるのは惜しい。

○遂に世に認められる事もなくくちほてし

た。

()

ク
4
ハ
バツ
タイ
く
ち
は
はッ
たい

(
#3
)

○口ははッたいことを云ふやうだが、さう

いふ問題を僕に相談すべからよ。

○自分の事を考へたら口はッたい事はい

ない

()

ク 4 ヒル くちびる [唇] (名)

唇を使って発音する音も両唇音といひます

す。

彼は昨日から唇が腫れて物が食べられな

いので困つてゐる。

唇七びて齒寒し (諺) — 笨刀者の一才が衰へると他

方も衰へる 唇言。

唇を反へす 句 — 妬み ^憎 んで悪口をいふ。

唇を尖らす 句 — 不平らしく物をいふ。

ク
4
フ
エ
く
ち
ぶ
え
「口笛」
〔名〕

○彼はなのなか口笛の上手だ。

○この犬は僕の口笛をきくとどこにぬても

おぐ飛んで来る。

○口笛はやかて森の中へ消えていって

○何時の間にか口笛が止んだ。

○口笛をふらう。

ク
4
ブリ

く
ち
ぶり

口
振

(名)

○彼の口振りでは、今の仕事には余り

興味がなさをさうた。

○^彼支那のことなら知らぬことは一つも無

いといふ口振りな。

ク
千
マ
ネ

く
ち
ま
ね

「口真似」

(名)

ト
十
百
十
十
十

○彼は右の如か先生の口真似が巧いのでよ

く
だ
ま
さ
れ
る

○よく口真似をする。

○~~山田~~口真似するものではないありません。